

## 企画展

## 豊かな里海・広島湾

海からのめぐみと人びとのくらし

令和元年5月25日(土) ～ 7月7日(火)



【水彩画】 干潟でのカキ養殖(採苗)<sup>さいびょう</sup>の作業風景  
昭和17年(1942)頃 現広島市西区草津 画：木村秀男氏

昨年度、戦前のカキ養殖の作業風景を描いた水彩画の作品10点を寄贈いただきました。いずれも養殖業に携わっていた方の筆によるもので、当時のカキ養殖の様子を知る手がかりとなるだけでなく、身近な海で作業に従事する人びとの活気ある雰囲気色彩豊かに描かれています。カキ養殖は古くから広島湾を代表する水産業として広く知られていますが、現在の私たちの日々の暮らしの中で海を身近に感じる機会は残念ながらとても少なくなっています。それはなぜでしょうか。今回の展示では、広島湾沿岸部で古くから盛んに行われてきた養殖や漁業「海辺<sup>なりわい</sup>の生業」、沿岸部の祭りやレジャーを中心とした「海辺のにぎわい」、平成30年間の沿岸部のインフラ整備や海と人との新たな関わり方を中心とした「沿岸部の今とこれから」の3つを柱に水彩画や写真で広島湾沿岸部の人びとのくらしと海とのつながりの移り変わりを紹介しました。



## 目次

- P 1-2 企画展「豊かな里海・広島湾」
- P 3 企画展「夏休みおばけの博物館」
- P 4 夏休み特別企画「すずさんと学ぶ戦時下のくらし」
- P 5 イベント「郷土資料館被爆建物案内」

- P 5-7 活動報告(4月～9月)
- P 7 博物館実習・インターンシップ
- P 8 平成31年度後期展示紹介





カキ養殖(収穫)の作業風景 現広島市西区草津 画：木村秀男氏

太田川河口に位置する広島湾沿岸部にはかつて広大な干潟があり、人びとは浅場でのカキや海苔の養殖や漁業によって海の恩恵を受けてきました。江戸時代には養殖や漁の技術の発達とともに生産性も向上し、矢野・仁保・江波・草津に代表される沿岸部の町では漁業や海運業を中心とした生業、さらに管絃祭や江波の漕ぎ伝馬など地域の歴史や祭りなどの文化も発展しました。近代以降、交通網の整備などによって、向宇品（現在の

元宇品）や草津～井口・五日市～楽々園にかけて海辺の名所や海水浴場・遊園地など多くの人が訪れるにぎわいの場も数多く登場しました。その一方、宇品港の築港や広島工業港の建設、さらには戦後の工業の発展と急速な都市化によって沿岸部の埋立てや水質悪化が急速に進み、人びとに海の恩恵をもたらした干潟や藻場が激減しました。これによって、海の生業やにぎわいの場は深刻な影響を受け、海が身近にありながらも人びとと海とのつながりは急速に薄らぐこととなりました。近年では、これを見直す動きとして「里海」の考え方が注目されています。水質改善をはじめ一度失われた沿岸海域の環境回復を目指し、海・山や森・それらをつなぐ川など沿岸部の海と陸を一体として捉え、人の手で管理することで人と自然のバランスを取り戻そうとするもので、水産資源や環境の保全だけでなく、都市開発やレジャーなど、海と私たちの生活の関わりを多角的に考え継続しようとする取り組みが進められています。



展示風景

海の環境の変化と私たちの暮らしは、つながり方こそ変化していますが、昔も現在も決して切り



展示ガイドを聞く参加者

離されたものではありません。この度の展示で広島湾沿岸がかつて自然豊かで人びとの暮らしに身近な存在だった様子と、「里海」として人の手を介して高い生産性と生物の多様性を保ちながら、これからの私たち暮らしと自然の間をつなぐ新たなつながりの両面に目を向け、本展示が海を身近に感じていただけるきっかけとなれば幸いです。

会期中の来館者：1,470人

（川橋奈織）

## 企画展

# 「夏休みおばけの博物館」

会期：令和元年7月20日(土)～8月25日(日)

夏が近づくと「今年はいつから始まるのですか」と問い合わせの多い企画展「夏休みおばけの博物館」を開催しました。平成20年(2008)以来、今年で11年目を迎え、当館の夏の風物詩として定着し、今年も多くの方の来館者でにぎわいました。夏休み中の開催なので、ご家族連れも多く、お盆には広島に帰省したお孫さんを連れて、おじいさんやおばあさんもおられました。

### 1 江戸時代の夏を追体験できる企画展

本展示は、昔の人々が不思議な現象に何を感じ見たかなどの想像力や発想を考えながら、昔の人々の暮らしや風習に興味を持っていただこうと企画しました。昔の人が描いた妖怪の絵を参考にしたリアルな妖怪模型を2階の企画展示室で紹介しました。暗い室内に妖怪たちがずらりと並び、薄暗くなった「お化け屋敷風」の展示室では、怖くて入れないお子さんもいるので、今年は入口を「お祭り風」に明るく楽しくしてみました。代わりに後半に行くにしたがって…。

夏休み的一天を涼みながら、江戸時代の人々の想像力や風習に触れていただきたいと思います。

### 2 八木一文氏の付喪神フィギュア人形

今年も、作家・八木一文氏のご協力をいただき、<sup>つくもがみ</sup>「付喪神(古い道具に宿った精霊)フィギュア」を20点展示しました。どれもユニークで可愛い付喪神を、楽しくご覧頂きましたが、特に外国人の方には日本の付喪神はおもしろく映ったようです。



付喪神「<sup>ごとく</sup>五徳猫」(後ろの猫)

頭に五徳(囲炉裏や火鉢で鍋や釜、やかん等を置く道具)が付いています



今年のエントランスは、軽快な音楽で、明るく楽しくいざいました

### 3 大人気の「付喪神を描こう」コーナー

大人気だったのは、土日祝日に実施した「付喪神の絵を描こう」コーナーです。展示している付喪神のフィギュアの姿を観察して色鉛筆を使って絵を描いていただき、作品は「夏休みおばけの博物館」の期間中展示ロビーで展示する企画でした。お子さんはもちろん大人の方や外国人の方にも多数ご参加いただきました。すぐに作品を展示するスペースがなくなり、階段踊り場や2階にも展示しました。

### 4 子ども喜ぶ?「妖怪と一緒に写真を撮ろう」コーナー

妖怪模型と一緒に写真を撮るコーナーも人気でした。保護者と多くのお子さんは喜んで(?)写真に納まっていた。

会期中の来館者数：7,522人

(河村直明)

## 夏休み特別企画 「すずさんと学ぶ戦時下の暮らし」

会期：令和元年7月20日（土）～9月1日（日）

毎年8月6日に行う「被爆建物案内」を拡充し、戦時中の社会や暮らしについてより深く理解をしていただくための初の企画として、「すずさんと学ぶ戦時下の暮らし」を実施しました。内容は①「戦時中の茶の間と台所」の再現展示、②漫画『この世界の片隅に』のパネル展示、③クイズラリーの合計3本。①は平成30年度に展示更新した「昭和の茶の間と台所」を戦時中に模様替えするもので、再現住居に白い紙を貼った窓や灯火管制の電灯を配置し、茶の間や展示ケースに代用品（陶製湯たんぽ・防衛食容器・布製バケツ）、防空頭巾、マッチ、ラジオなど戦時中の実物資料を展示しました。②は昨年度の企画展「漫画『この世界の片隅に』に見る戦時下の暮らし」で作製したパネルのうち、「町内会・隣組」「配給」「代用品・代用食」「人員疎開」「建物疎開」など10枚を再び展示し、漫画を通して戦時下の暮らしを紹介しました。③は①と②に関係する事柄を中心に、来館者にクイズ8問を解いていただくもので、参加記念として、片面にこの史代氏描きおろしのすずさん、もう片面に戦時中の生活道具（5種）の資料写真を入れてこれをカード化し、プレゼントしました。



戦時中の茶の間と台所 (再現展示)

急遽決まった事業でしたが、ポスターやチラシの締切に間に合い、夏休みの他の事業とともに広報することができました。また、SNSなどで情報が拡散され周知できたこともこの事業に対する注目の高さを表すものでした。クイズラリーは原爆の日や終戦記念日を意識して期間を設定し、期間中はクリップボードを片手にクイズを楽しむ親子連れなどでにぎわいました。

戦後世代が多数を占め、戦時中の社会や暮らしについて学べる機会が少ない中、夏休みに本事業を実施できたことは大変有意義だったと思います。また、既存の「遊びの広場」や「カンタン工作」に加え、新たにメニューを提供したことで来館者の多様なニーズに応えることができました。クイズラリーは自分で問題をみつけその周辺の展示などから解答を引きだすものですが、これをきっかけに展示をじっくりご覧になる方や世代間で会話が生まれている光景も見られました。同時に、遊びながら学べるクイズラリーは来館者の方に展示を身近に感じていただくことにもつながりました。次年度もより多くの方に興味・関心をもっていただけるよう企画してまいります。パネルの再利用や記念品作製については時間がない中、この史代氏と双葉社には快く承諾をしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



クイズラリーの挑戦者の様子

クイズラリー参加者：1,040人（高野和彦）

## イベント 「郷土資料館被爆建物案内」

開催日：令和元年8月6日（火）



折れ曲がった天井の鉄骨を見ながら説明



「一銭洋食」、「江波団子」の試食

74回目の原爆の日である8月6日（火）に、被爆建物である当館の建物（旧宇品陸軍糧<sup>うじなりくぐんりょう</sup>秣<sup>まつししょうかんづめこうじょう</sup>林支廠罐詰工場）の案内を通して、平和について学ぶ「郷土資料館被爆建物案内」を行いました。当日は、当館エントランスにある原爆の爆風で曲がった天井の鉄骨の下で、建物のたどった108年の歴史を解説をしたほか、2階講堂では、昭和7年（1932）に宇品港から出征する兵士や見送る広島市民の姿を記録した映像の上映、戦中戦後の食糧難の時代に食べられた「一銭洋食」や「江波団子」の試食を行いました。常設展示室「昭和の茶の間と台所」は戦時中バージョンに展示替えしました。学芸員実習の学生（9人）も実習の一環でスタッフとして参加してもらいました。多くの方に参加いただき、戦争と平和を考える一日となりました。

当日の来場者数：651人（河村直明）

## 活動報告

平成31年4月～令和元年9月

### ■ 教室事業

実施日	事業名	参加者数
4月20日（土）	親子教室「和菓子作り」	23名
4月27日（土）	教室「かしわもち作り」	22名
6月16日（日）	大人向け教室「藍染めTシャツ作り」	21名
6月29日（土）	教室「藍染めTシャツ作り」	26名
7月6日（土）	教室「藍でハンカチ染め」	25名
9月14日（土）	教室「月見団子作り」	19名
9月27日（金）	大人向け教室「大人の染色体験」	20名

### ■ GW お楽しみイベント

日程	事業名	参加者数
5月3日（金・祝）	なぞ解きに挑戦！クイズラリー@郷土資料館	19名
5月4日（土・祝）	なぞ解きに挑戦！クイズラリー@郷土資料館	19名
5月5日（日・祝）	なぞ解きに挑戦！クイズラリー@郷土資料館	70名
5月5日（日・祝）	みんな集まれ！むかしのあそび	62名

■ 夏休みわくわくイベント

日程	事業名	参加者数
7月23日(火)	遊びの広場「昔の遊びをしてみよう！」メンコなど	76名
7月24日(水)		55名
7月25日(木)	遊びの広場「昔の遊びをしてみよう！」割箸鉄砲など	89名
7月26日(金)		82名
7月28日(日)	ファイヤーバンドコンサート	82名
7月30日(火)	遊びの広場「昔の遊びをしてみよう！」けん玉など	109名
7月31日(水)		80名
8月1日(木)	カンタン工作「手作りカッコウ笛」	70名
8月2日(金)		77名
8月7日(水)	カンタン工作「フラワー吹き上げパイプ」	91名
8月8日(木)		61名
8月9日(金)		30名
8月14日(水)	カンタン工作「紙コップロケット」	50名
8月15日(木)		23名
8月16日(金)		91名



割箸鉄砲で、的当てゲームにやる気満々！



フラワー吹き上げパイプの完成

■ 館外事業(カッコ内は主催者)

実施日	事業名	参加者数
4月6日(土)	講演「西国街道」(広島仏だん通り活性化委員会)	30名
4月16日(火)	講演「広島城下の広がりと発展」(広島商工会議所観光サービス業部会)	66名
5月18日(土)	講演「広島干拓物語」(舟入公民館)	34名
5月19日(日)	フィールドワーク「白島歴史さんぽ」(minette)	20名
5月24日(金)	講演「広島歴史探訪～知られざる身近な史跡を探る～」(美鈴が丘公民館)	61名
6月2日(日)	講演「似島の歴史講演会」(広島市役所国際交流課・ハノーバーの日実行委員会)	300名
6月2日(日)	工作指導「からくりのぼり人形作り」(広島城)	184名
6月6日(木)	講演「広島歴史探訪」(広島市民カレッジ)	80名
6月8日(土)	講演「広島城下町の発展」(早稲田公民館)	35名
6月9日(日)	ショップ商品販売(路面電車まつり実行委員会)	—
6月15日(土)	講演「浜恵美須神社と常夜灯等のおはなし」(土橋町町内会 西本川のむかしむかし事務局)	34名
6月23日(日)	講演「赤穂事件と広島に関わり」(楽々園公民館)	49名
7月4日(木)	講演「広島城下町と西国街道」(井口公民館)	41名
8月1日(木)	講演「東千田町の記憶 旧広島大学周辺の歴史を学ぼう」(ひろしまジン大学)	15名
8月7日(水)	工作指導「パラパラアニメーション教室」(まんが図書館あさ閲覧室)	16名

8月18日(日)	フィールドワーク「江戸時代の広島発見！」(西区役所地域起こし推進課)	40名
8月22日(木)	工作指導「パラパラアニメーション教室」(高陽公民館)	18名
8月31日(土)	体験指導「藍染めTシャツ作り」(牛田新町学区子ども会)	20名



フィールドワーク「江戸時代の広島発見！」



工作指導「からくりのぼり人形作り」

## 博物館実習 令和元年5月～8月

今年度も学芸員資格取得を希望する学生のための見学実習と館務実習を受け入れました。見学実習では、学芸員が館の概要を説明した後にバックヤードを見学して頂きました。館務実習では、当館の博物館活動の実際を講義形式や実技で学んで頂き、その集大成として、8月6日のイベント「郷土資料館被爆建物案内」において、建物のガイド役や一銭洋食の試食補助などを担当してもらいました。また、最終日には、各実習生が考案した獨創性あふれる企画展案を披露して頂きました。

(篠原達也)

### ◆見学実習◆

5月30日(木) 県立広島大学 5人

6月9日(日) 広島市立大学 16人

### ◆館務実習◆

7月31日(水)～8月7日(水) 6日間

奈良大学、比治山大学、県立広島大学、安田女子大学

計9名



館務実習で梱包の指導を受ける実習生



被爆建物案内で建物のガイドを行う実習生

## インターンシップ 令和元年8月20日(火)～24日(土)

郷土資料館では毎年、大学の夏休み期間中(7月下旬～9月末)にインターンシップ実習生の受け入れを行っています。今年は、安田女子大学の2名の実習生を迎えました。

おばけ屋敷のおどかし役や、広報物の配布、アンケート集計、広島城への見学など、博物館のさまざまな業務を体感していただきました。(本田美和子)

## 平成31年度 後期展示紹介



### 企画展 『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

令和元年9月7日（土）～11月24日（日）

毎年恒例の小学生対象の企画展。新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や情景を再現・展示し、昔の人々の暮らしを紹介します。

展示風景



浅野氏広島城入城400年記念事業

### 特別展 『広島町新開絵図』に見る浅野時代の広島城下

令和元年12月7日（土）～

令和2年2月24日（月・振）

江戸時代の町人町や新開が詳細に描かれている「広島町新開絵図」をパネル展示し、その検証を通して、浅野藩政期の広島城下の様子を探ります。

「広島町新開絵図」より、  
現在の広島平和記念公園周辺の様子  
広島市（市民局文化スポーツ部文化振興課）所蔵



浅野氏広島城入城400年記念事業

### 企画展 「安芸の名産・特産－広島藩の殖産興業－」

令和2年3月7日（土）～5月6日（水・振）

江戸時代、広島藩内で生産あるいは採取された、牡蠣、海苔、鮎、西条柿などの名産品・特産品を取り上げ、その消長について紹介します。

「山海名産図会」より、  
江戸時代の広島でのかき養殖の様子  
国立国会図書館デジタルコレクション所蔵



ひろしま郷土資料館だより No.98

令和元年（2019）10月31日発行

編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館

〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目 6-20

TEL:(082)253-6771 FAX:(082)253-6772

URL: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

